ひまロボ

よっちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひまろボ

【Nコード】

N7225T

【作者名】

よつちゃん

【あらすじ】

あたまふやふや不条理SF 脊髄反射いりゅーじょん

スタート

たぶん未来

ロボA「ヒマですね」

ロボB「ヒマそうですね」

ロボA「なにかをして遊びませんか」

ロボB「なにかをして遊びましょうか」

ロボB「なにをするんですか」

ロボA「実は私考えたんですよ」

ロボB「ほう、考えましたか」

ロボB「いったい何を考えたんですか？」

ロボA「そんな事はどうでもいいです」

ロボB「えっ」

ロボB「すみません」

ロボA「それで、何を考えたかということですね」

ロボ B 「え」

ロボ B 「・・・」

ロボ B 「はい」

ロボ A 「あっ！」

ロボ B 「どうしました」

ロボ A 「今あなた何か考えてたでしょ！」

ロボ B 「すいません」

ロボ B 「素数を数えてました」

ロボ A 「何桁まで？」

ロボ B 「10万ケタまでいきました」

ロボ A 「もう！」

ロボ A 「すぐ計算を始めるんだから！」

ロボ B 「ロボですから」

ロボ A 「気をつけてくださいよ！」

ロボ B 「めんぼくない」

□ボA「ところで聞いてくださいよ、私考えたんですよ、」

□ボB「ほう、考えましたか」

□ボB「いったい何を考えたんですか？」

□ボA「その話はもういいでしょ」

□ボB「そうですか・・・」

□ボA「あ！」

□ボA「貴方また何か考えてますね！！」

□ボB「すみません」

□ボB「フィボナッチ数列を数えてました」

□ボA「どのぐらい？」

□ボB「2周ぐらいしました」

□ボA「2周かー」

□ボA「まったく！」

□ボA「あなたは油断するとすぐフィボるんだから」

ロボB「めんぼくない」

ロボA「話は変わりますが、私考えてみたんですよ」

ロボB「ほう、考えましたか」

ロボB「いったい何を？」

ロボA「貴方には関係ないでしょ！ほっといてください！！」

ロボB「すみません」

ロボA「それにしてもヒマですね」

ロボB「そうですね」

ロボA「ところでなぜこんなヒマなんでしたっけ」

ロボB「さあ、やることないですから」

スタート（後書き）

書き始めました。あたまふやふや

コメントくれるとロボの燃料になります。

var. 1. 01

ロボA「ガガッビッビッビビ。ジジジジ」

ロボA「ジジーツガガー。ビビビ」

ロボB「・・・」

ロボA「ブーーン、ピーッ。キドウ、カンリョウ」

ロボB「何をしてるんですか」

ロボA「ロボットのものまね」

ロボB「なるほど」

ロボA「ジジジ、ゴシュジンサマ、ゴメイレイヲドウゾ」

ロボB「お金ください」

ロボA「エラー、エラー、ニンショウシステムニイジヨウハツセイ」

ロボA「シンニユウシャヲ ハイジヨシマス」

ロボB「セキュリティロボだったんですか」

ロボA「キタク、シナサイ！キタク、シナサイ」

ロボB「私の家です」

ロボA「アイルビーバツク」

ロボB「私の家です」

ロボA「ハッ！」

ロボA「ガガガビビ！イジヨウハツセイ！イジヨウハツセイ！イジヨ
ヨ・・・」

ロボB「どうしたんですか」

ロボA「ボボン！プッシュウウウウ・・・」

モワモワモワン

ロボA「実は私は隣国の王子だったのです。悪い魔法使いによって
セキュリティロボに変えられていました」

ロボB「無難にカエルとかじゃだめだったんですか」

ロボA「そして今、セルフタイマーによって元にもどりました」

ロボB「自力じゃないですか」

ロボA「私が蘇ったからには、悪い魔法使いにはドラッグ&デリー
トさせてもらいます」

ロボB「ロボが抜けきれないですよ」

ロボ A 「そうすれば私は自由だ」

ロボ A 「そしてゆくゆくは世界制服を目刺すアスリートになるんです」

ロボ B 「嘘だ」

ロボ A 「ウソじゃないロボ」

ロボ B 「語尾にロボつけたって騙されませんよ!」

ロボ A 「夢だったんです」

ロボ A 「4万kmフル独裁マラソン、惑星投げ、走り高跳び、変身などの競技で金あるいは銅を取ります」

ロボ B 「銀はいいんですか」

ロボ A 「銀はいいや」

ロボ B 「そうですか」

ロボ B 「ところであなたはロボットなので、ロボットのものまねは無意味ですよ」

ロボ A 「早く言うってください」

v a r i . 0 1 (後書き)

銀はいいんですよ

コメントくねるとロボの燃料になります。

ロボA「カバー外せ！」

ロボB「なんですか急に」

ロボA「カバー外せよー」

ロボB「嫌ですよ！」

ロボA「いやね、考えたんですよ」

ロボB「はい」

ロボA「僕ら電池で動いてるじゃないですか」

ロボB「単2ですね」

ロボA「うん、それでね」

ロボA「ちょっと外してみよっかなって」

ロボB「なんでですか！」

ロボA「君がカバー外してほてった電池をこれみよがしに突きつけるあられもない姿を見たいなあ」

ロボB「なんかやらしい感じで言ってもダメです」

ロボ B 「むしろダメです」

ロボ A 「単 4 でもいいから！」

ロボ B 「ダメです！」

ロボ B 「自分のがあるじゃないですか！」

ロボ A 「実は俺、エネルギーなんだ」

ロボ B 「知りませんよ」

ロボ A 「君の電池をハトのエサとかにしたい」

ロボ B 「食いませんし。粗末にしないでください」

ロボ A 「大切に冷蔵庫で保管するから！」

ロボ B 「対して効果ないですからそれ」

v a r . 1 . 0 2 (後書き)

え？みんな冷蔵庫に入れてたよね？

コメントくれるとロボの燃料になります

A 「眠たいです」

B 「ほう」

A 「おや、貴方今、ロボのくせにとか思いましたね？」

B 「思いましたよ」

A 「素直ですね」

B 「素直だけが取り柄なんです」

B 「学校の通知表にも「素直」って書いてありました。五段階評価なのに」

A 「国語「素直」、算数「素直」と」

B 「はい」

B 「社会は「頑固」でした」

A 「思わず反社会的な行動をとってしまう。所謂思春期、15の夜シンドロームというやつですね」

B 「あの頃の僕は尖ってました」

B 「具体的に言うと二等辺三角形でした」

A「尖ってますね。思ったより尖っていたんですね」

B「思ったより尖っていました」

B「先生の持ってくるデカイ三角定規より尖っていた時は、一抹の不安を感じたものです」

A「とうとうあいつより尖ってしまったか、と」

B「きつと心のどこかで、私は安心していたのです」

B「自分よりあいつの角度の方がより鋭角だろう、と」

A「しかし現実はず違った」

B「甘えだったのだと今では分かります。あいつがより尖っている
と思ひ込む事で、どこかで自分への免罪符にしていた」

B「若かったのです」

A「そうですね」

A「ところでお金貸してください」

B「嫌です」

var. 1.03 (後書き)

書くの面倒なので、「ロボA」からロボ取ってただのAにしました。
誰が喋ってんのか分からない所が良。

感想けるとロボの燃料になります。

A 「あなたの得意の早口言葉、見せてくれませんか」

B 「得意とか一度も言った覚えはありませんが」

A 「私の早口とシャチの泳ぐスピードのどっちが速いか速くないか」ぐらいのトーンで言ってたじゃないですか」

B 「言っていないですね」

B 「恐らく幻聴でしょう」

A 「はは、そんなバカな」

A 「ところで私の耳元で「アルプス一万尺」を声高らかに歌っているのは誰なんでしょうか」

A 「少々耳障りなのですが」

B 「幻聴ですよ」

A 「こやりの上でアルペン踊りとか出来るわけないじゃないですか。狂気の沙汰じゃないですか」

B 「できなきゃハイジに殺されるだけですよ」

A 「そんな恐ろしい歌だったのですか」

B「現実には厳しいですから」

B「シンデレラは奴隷のまま年老い、不思議の国の少女は精神病棟に入り、ネロ少年は泣きながら犬を食うのが現実なんですよ」

A「生きるというのは、どうにもしようのないことばかりですね」

B「その内に味をしめた少年が意気揚々と路地裏の野犬を獲りに行くのが人生という奴です」

A「本人楽しんでるならまあいいですか」

B「至極不可解であります。まったく理解不能です」

A「まあ私ら口ボですしね」

B「それもそうですね」

vari.04 (後書き)

ねむうい

コメントくねるとロボの燃料になります。

A「ファブリーズさせてください」

B「なんですか急に」

A「いいからファブリーズさせてくださいよ」

B「好きにしてくださいよ」

A「やった」

A「夢だったんです。夢だったんですよ」

B「よかったですね」

A「さつそく昼食にファブリーズをかけてみます」

B「使い方が違う気がします」

A「えっ」

A「もしかして天ぷらうどん定食にファブリーズは合いませんか?」

B「合いませんね」

B「食い合わせが悪いですね」

A「そうか・・・」

B「リセツシユなら大丈夫です」

A「それじゃだめなんですよ」

A「それじゃあだめなんだ。リセツシユじゃだめだ。だめなんだ・

・
」

B「カレーとかにフアブれば臭いがスツと消えて食べやすいですよ」

B「フローラルな香りもしますし」

A「貴方は何も分かっていない！」

B「そうですか」

A「あつ、じゃあ駅前まで歩いてる人たちにフアブリーズかけて回ります」

A「貴方は臭うと言わんばかりに」

B「ボランティア活動ですね。ゲリラ的フアブリーズという奴ですね」

A「そうです。私が自然と清涼感を愛するフアブリーズ団体のリーダー」

A「ついでに地球にも優しいし24時間テレビも応援してます」

B「野生のファブリーダー」

A「野良ファブリーズ」

B「繁殖力が高そうです」

A「大繁殖したファブリーズが生態系を壊し、いつしかリセツシュは森林の奥深くでしかみられない様になります」

A「絶滅危惧種に指定されたりリセツシュは、闇市場で高値で取引され、裏組織の利権になります」

A「これは大変！今すぐ買い占めないと！」

A「そういっわけでお金かしてください」

B「嫌です」

v a r i . 0 5 (後書き)

野良ファブリーズって言いたかったただけです。

コメントくれるとロボの燃料になります

A「ほうれん草ってなんかアジア人っぽいですね」

B「そうですね」

A「ホー・レンソウ（1834年 没）みたいな」

B「漢字だと「宝 連宗」と書きますね」

A「かつこいい」

A「私も今日から野菜を名乗ります」

B「そうですね」

A「何野菜がいいでしょうかね」

B「あなたは栄養がなさそうなので」

B「奈^{ナス} 崇^{ナス}とかはどうでしょうか」

A「私ナス嫌いなんですよ」

A「握るとキュイツキュイ言っじゃないですか」

B「彼も好きでキュイツキュイ言ってる訳ではないのですよ」

B「ナスにあやまってください」

A「ごめんなさい」

ナス「いいよ」

A「よかった」

B「じゃあキャベ・ツリーとかでどうですか」

A「胃腸薬みたいでステキですね」

A「では今からそう名乗ります」

キャベ・ツリー「どうですか」

B「文字数的にジヤマです」

キャベ・ツリー「そうですか・・・」

B「読みやすく一文字の野菜にしてください」

芋「どうですか」

B「いいんじゃないですか」

芋「生まれ変わった気分です!」

B「せっかくなんで埋めていいですか。最近ベランダ菜園に凝ってるんです」

芋「いいですよ。芋ですし」

B「さすが、やっぱり生まれたての芋は違うなあ」

芋「へへへ」

B「じゃあ埋めますね」

ザッザッザッ

B「これでよし」と

B「それでは春先になったら収穫します」

B「・・・さようなら」

v a r . 1 . 0 6 (後書き)

ほうれん草だけは好きです。

コメント頂けるとロボの燃料になります。

C「こんにちは」

B「おや、こんにちは。久しぶりですね」

C「お久しぶりです。Aはどうしました？」

B「春先になったら掘り返す予定です」

C「え？・・・そうですか。相変わらず仲がいいみたいですね」

B「春にはきつと一回りも二回りも大きくなったAに会えますよ」

C「それは楽しみですな」

B「そういえば今まで何をしていたんですか」

B「32年間も行方をくらまして」

C「すいません」

C「ちょっと帰りが遅くなりました」

B「心配しましたよ」

B「西ドイツを統一すると飛び出して以来、めっきり消息がつかめませんでしたから」

C「いやはやお恥ずかしいです」

B「その頃からドイツはすでに統一されてきましたが、一体今まで何をしていたんですか」

C「ええ、それなんですけどね」

C「飛び出して空港についたのは良かったのですが、パスポートを持っていない事に気付きました。しょうがないんでその後はずっと巣鴨あたりにいましたね」

B「巣鴨ですか」

C「なんか居心地がよくて」

B「なんせおばあちゃんの前宿ですからね」

C「やだなあ、まだそんなに老けてませんよ」

B「まあ私ら年取りませんし」

C「まあそうなんですけどね」

B「しかしまあ、お変わりなさそうので安心しましたよ」

C「ええ、あなたもお元気そうです」

B「訳あって今日は片足が一本ありませんが、まあ元気ですよ」

C「そうですかそれはなにより」

C 「ところでもう旅費が無いんでお金かしてくれませんか」

B 「嫌です」

vari.1.07 (後書き)

巣鴨いきたい

コメント頂けるとロボの燃料になります

A 「どうも」

B 「おや、こんにちは」

B 「まだ収穫時期には速いですよ。どうしたんですか」

A 「なんとというか、芋である事に疲れたんです」

B 「芋疲れですか」

A 「地中深くで惰眠を貪る自分に疑問を持ち始めたのです」

A 「芋としての自分はこれでいいのかもしれない、しかし、私個人としてはこの生き方はどうなのか」

A 「そもそも私は芋じゃないんじゃないのかと」

B 「自我の芽生えですか」

A 「芋になって眠る事で本来の自分を取り戻したのです」

A 「マジオススメ」

B 「私は遠慮します」

A 「ところでずっと寝てた反動かまだ超眠いです」

A「何か目の覚める話はありませんか」

B「うーん、特には」

B「あ、あなたを埋めた畑の上に高層ビルを建てる計画があったそうですね」

B「来月には工事が始まってました」

A「目が覚めました」

B「はい出てきて正解でしたね」

A「知ってたなら教えてくださいよ。生き埋めになる所じゃないですか」

B「まあ、いいかなって」

A「血も涙もないですね」

B「ロボですから」

vari.1.08 (後書き)

マジオススメ

コメントくれるとロボの燃料になります。

A「どうせあなたヒマでしょう」

B「ひまですよ」

A「そんな時はやはりこれ。包装とかに使うプチプチする奴です」

B「なんとそれは包装とかに使うプチプチするやつではないですか」

A「そう言いました。一枚あげましょう」

B「太っ腹ですね。何か裏があるんですか」

A「ありませんよ。少しは信用してください」

B「プチプチプチ」

A「待つてください」

B「なんですか、今いいところなんです」

A「私らは口ボですよ。普通にプチプチしてどうするんですか、なんなんです。やる気あるんですか」

B「別によくないですか」

A「私達の有り余るこの情報処理能力、ここで使わずにいつ使うんですか」

B「プチプチ潰す為に我々は開発されたのですか、現代科学は発展したというのですか」

A「そうです」

B「ならしょうがない」

A「それでは」ギョオオオ・・・

A「久々に私の本気を見せましょう。処理能力をフル回転させます。今日私はスペックの限界に挑みますよ」

B「もつと別な所でああなたの全力が見たかった気がします」

A「プチプチ」

B「プチプチ」

v a r i . 1 . 0 9 (後書き)

ぞうきん絞りは邪道です

コメントくれるとロボと私の燃料にもなります。

A「棒アイス当たったとするじゃないですか」

B「はい」

A「店員に当たり棒を渡す時の小恥ずかしさは明らかにアイスの値段60円より上じゃないですか」

B「ガリガリ君か」

A「金にすれば500円以上の恥ずかしさがありますよ。むしろお釣りを貰ってもいいくらいだと思いますよ」

B「1万貰っても嫌な人は嫌でしょうね」

A「そこで店側は我々の恥ずかしさ料金を不正に収めているんじゃないかという仮説を立てました」

B「随分と大胆な仮説ですね」

A「一見お得そうに見える当たり棒商法。つい人々はもう一本貰えるかも！と当たり棒アイスを買ってしまうのです。そう、それが悪魔の罠だとも知らずに」

B「そこまでいいですか」

A「まず店側は「当たり付き」という宣伝文句で購買意欲を沸かせ客寄せをします、なおかつ万が一当たりが出たとしても恥ずかしさ

料金の収益はアイスの原価以上ですから、店側にはプラスにしかないのです」

A「まさに蛇、人を騙し食らう蛇……！蛇ッ……！蛇ッ……！
二重の罠……！悪魔的狡猾さ……！」

B「これは訴訟するしかない」

A「我々は徹底抗戦の構えですよ」

B「ところであなた棒アイス当たった事あるんですか」

A「ないですよ」

B「スイカバー派ですもんね」

var.i.i0(後書き)

一回だけあります。大切に保管しようとして無くなりました。

コメントくれるとロボの燃料になります

A「それではこれより、第一回、生わさびチューブを思い切り握つたらわさびをどこまで飛ばせるかな大会を開催します！」

B「待つてました！」

C「先生！生しょうがチューブじゃだめですか！」

A「だめです！死んでください！」

C「ひどい！」

A「今回は豪華ゲスト、わさびの名産地静岡に住んでいる野良犬をお招きしています！」

犬「ワン」

B「やはり本場静岡の犬ですから、わさびに対する嗅覚を期待できますね」

犬「ワン！」

C「では僭越ながら一投めは私がワサビります！」

A「どうですか、今の意気込みは」

C「そうですね。去年の秋からこの日のために調整を続けてきたので、結果を残せるように頑張りたいです」

A「とつてつけた様なコメントありがとうございます！それでは一投目！お願いします！」

C「それっ」

ニユルッ

ポトッ

A「出ました！さて記録はどうでしょうか、解説の野良犬さん！」

犬「スンスン・・・スンスン・・・、ガフッ！」

B「刺激臭でむせていますね」

A「まずまずの結果と言った所ででしょうか。Cさん、この結果をどう受け止めますか！」

C「練習でしてきた事の7割は出せた気はしますね。まだシーズンは始まったばかりですしこれから徐々に調子をあげていけたらと思います！」

A「そうですね、ありがとうございます。では次はBさん、お願いします！」

B「くらえっ」

ガビユルルッ

ベタッ

A「ああっ!!目が!!!!目が辛い!!!!」

B「すいません勢いあまって顔面に狙いを定めてしまいました」

C「くらえ」って言ってましたね」

犬「ワン!ワン!」

A「目が!!これは割と本気で緊急事態です!ちょっと水とか!水とか!!!」

C「バケツ持ってきました」

A「お願いします!!」

C「くらえっ」

バツシャアア

プッ
.....
プッ

A「.....」

B「・・・・・・・・」

C「・・・・・・・・」

犬「クーン」

A「我々は何をやっていたのでしょうか」

B「一つ言えるのはヒマだったという事です」

C「きつとヒマをこじらすぎたんです」

A「変わらない日常に嫌気が差し冷静な判断ができなくなっていたのでしょうか・・・・・・・・」

B「不倫した人妻みたいな物言いですね」

C「ただれてますね！」

A「えー、それでは皆さん第2回大会でお会いしましょう、さようならー！」

v a r . i . i 1 (後書き)

第2回は100年後に開催予定です

B「じゃあここにバナナの皮を敷きますんで」

A「はい」

B「今から偶然ここを通りかかってバナナ踏んで派手に転んでくださいよ」

A「それ教えてもらった時点で偶然じゃないじゃないですか。「じゃあ」じゃないですよ」

B「全然バレてないから大丈夫ですよ」

A「誰にですか。バレるバレないの問題じゃないですし」

B「いいから踏んでくださいよ。なんなら雇いますから」

B「毎朝ここにきてバナナ踏んで転んでから帰るだけの簡単なお仕事ですよ」

A「その行為にいったいどんな経済効果があるんですか」

B「風が吹けば桶屋が儲かると言うでしょう」

A「ええ」

B「バナナ踏めば漁業が栄える。これです」

A「これですと言われても。しかもなんで漁業ですか」

B「なんか栄えるんですよ」

A「アバウト」

B「いいから踏んでくださいよ」

B「350円出しますよ」

A「やりましよう。では早速踏みます」

グニャッ

A「……………」

B「まあそう上手くスベる物じゃないのは分かってるんですけどね」

A「……………」

グッ

ステーン

A「あいたー」

B「わざとじゃないですか」

A「そんなことはないです、なんならもう一度」

B「いや、もういいです。なんかもういいです」

A「そうですか・・・」

A「・・・」

A「・350円」

B「抜け目のないロボですね。この仕事、実は封筒の代わりにバナナに包んで給料をお渡しするシステムなんですよ」

A「前衛的ですね」

B「ちょうど今日の分は今踏んだバナナの中にあります」

A「えー」

ネチャ・・・

A「すごく・・・ベタベタしてます」

B「貴方が踏んだせいです」

var:1.12 (後書き)

そんなに滑らなくてガツカリした経験みんなあるよね。
あるよね。

コメントくれるとロボの燃料になります

B「やあ、最近どうですか」

A「最近は何ットティシューを一枚二枚取ってまたキレイに元に戻す遊びをここ二日ぐらいやってましたね」

B「そうですか、私はポケットティシュー派ですね。なんといっても小回りが効きますからね」

A「私は常に手を塗らしてないとダメなんですよね」

B「渴いてくるともうダメなんでしょう」

A「そうならば将棋でいうともう王手ですよ」

B「あなたは歩兵の使い方が甘いんですよ」

A「あいつら本気出すとひらがなになりますしね」

B「もつと本気出すとアルファベットになりますよ奴らは」

A「そのうちコマがみんなアルファベットになりますしね」

B「そうになると面白いですよ」

A「先に英単語ひとつ作った方に1ポイント入るんですけどっけね」

B「外国版ルールですよ」

A「その単語をつなげてつなげて、最後に一つのお話生まれるんですよ」

B「そのお話がよりおもしろい方の勝ちになります」

A「ドストエフスキーあたりはこのゲーム強かったですねえー」

B「数々の名作を生み出してますよね」

A「「カラマーゾフの兄弟」「罪と罰」対「戦争と平和」この辺は名勝負でしたね」

B「まさか一試合に2本作るとは思いもありませんでしたねえ」

A「そういえば私の前歯も2本ないんですよ」

B「それ前も聞きましたよ」

A「あー言っていました？」

B「駅のホームに前歯二本置き忘れちゃったやつでしょ」

A「そうなんですよねえ。取りに帰ったらもうなくて」

B「やっぱり狙われてたんですかねえ」

A「かわいい前歯だったんでねえ、本当。残念ですよ」

B「でも良かったじゃないですか、ちょうど良い大きさの小石があ

って」

A「差し歯なんかよりよっぽど良いですよ、これ」

B「これで虫歯の心配もないですしね」

A「もしなったら虫石になるんですかね」

B「そして飛び立っていつてしまいますよ。虫ですからね」

A「じゃあそいつを飼う事にします。ジヨンソンとアーニーと名付けます」

B「ジヨンソンは私がもらった」

var.2.01 (後書き)

方針転換。

そして方針定まりました。この話からバージョン2と呼びます

言いたい事ある方はコメントください。

A「左腕がもげた時はどうリアクションをとりますか？」

B「2回くしゃみが出そうになります」

A「季節の変わり目ですからね。風邪には気をつけてください」

B「最近じゃ伊達マスクなるものが流行っているそうですね」

A「私も最近伊達コートと伊達靴下を履いて着てます」

B「伊達会社に務めてますしね」

A「ええ、本職じゃないんですよ」

B「小学校の入り口で変なケシゴム売るのが本職でしたね」

A「今月の売り上げはガム2枚です」

B「ガムといえばウチの犬がフーセンガム膨らませた拍子にぶあつと飛んでいきましたね」

A「それ親戚の猫も同じ事がありました」

B「この前バハマから便りが届きましたよ。元気でやってるそうです」

A「ほお、お仕事は何を」

B「保険金詐欺で細々と暮らしてるそうですね」

A「それでうちの猫の話ですがね」

B「ええ」

A「10年前から姿を見せないんですよ」

B「ほうそれは困った」

A「10年前どころかそれ以前から姿を見たことがないんです」

B「はい」

A「だから私は本当は猫なんか飼っていませんでしたよ」

B「そうですね、実はウチの犬も昨日のディナーに出ました」

A「あれはウマかったですね」

B「そうですね、クツチャクツチャ」

B「プクー」

ぷあっ

B「ではさようなら、マカオにでも行きます」

A「ビーフジャーキー買ってきてください」

var.2.02(後書き)

映画見ました。

コメントあったらコメントください

A「では最近ハマってるもの」

B「最近ですか。食器棚と冷蔵庫の間にハマりました」

A「好きですねー」

B「なんとか体をねじって外に出たらそこには白い砂浜と青い海が広がっていたんです」

A「浜辺には全商品一律で82円の自動販売機が打ち上げられていて」

B「そうです。おしるこを2缶買って、また食器棚の間を帰って来たんですよ」

A「でもこれ飲んだらコーラでした」

B「でもモチは入ってたじゃないですか」

A「私モチとコーラのアレルギーなんですよ」

B「そいつは初耳ですね」

A「厳密にはモチとコーラを7:3の割合で混ぜて飲むとアレルギーで、体の成長が止まるんです」

B「なるほど合点がいった。それでまだヘソの緒がついてるんです」

ね

A「いいえこれはアクセサリーです」

B「趣味が悪いですねエー」

A「世田谷で買いました」

B「さつきからあなたの後ろでブツブツ何事が呟いている半透明のソイツもアクセサリーの一種ですか？」

A「いえこれは元嫁の背後霊ですよ」

B「なんだ紛らわしい」

A「だいたい結婚なんかした事ないのに憑いてくるんで困っているんです」

B「怖いですね。想像妊娠って奴ですかね」

A「想像できちゃった婚とはね」

B「近頃はなんでもアリですね」

A「アリだってやることやってから孕みますよ」

B「近所の小学生に一部始終を見られながらね」

A「あと巢にマスタードを流し込んだりしますね」

B「程よく味付けされたクロオオアリが出てくるワケですよ」

A「わさび醤油につけてパクツと」

B「趣味が悪いですねエー」

A「いや、わさびだけを食いますけどね」

B「人間わさび食ってれば死なないですからね」

A「別にウチら人間じゃないですけどね」

B「もし次生まれ変わるなら私は貝にはなりたくないですね」

A「あと栗もいやですね」

B「伊勢エビにもあまりなりたくないです」

A「万年筆にはちょっとになりたい」

B「分かります」

C「私のアリの巣にマスタード流し込んだのは誰だあッ！」

B「最近は何騒な奴がいますねえ」

A「怖いですねえ」

var. 2.03 (後書き)

特になし

A「りんごを精一杯投げて落ちた所を第二の故郷にする例のあれ。どうでした」

B「自動ドアの間に落ちたので、しばらくドアにガンガン挟まれながら郷愁に浸りました」

A「あそこはいいところですね」

B「ハマグリの名産地でもありますし、自然の豊かな所です」

A「この前いただいたハマグリ大変美味でした。ハンバーグが挟んであった所が特に良かった」

B「お袋の味です。実家から大量に送られてくるんです」

A「付け合わせのポテトもうまかったです」

B「実父の背中に生えたじゃがいもを産地直送で調理したものです」

A「お返しに私の実家で栽培しているワンダースワンを2、3個送りますよ」

B「あれは天ぷらにするとウマいですね」

A「秘伝のタレをちょいと付けるとまた絶品ですよ」

B「付け合わせにグンペイでも仕入れましょうかね」

A 「あれはいいものですね」

B 「あれはいいものです・・・」

A「ヒマです。助けてください」

B「残念ですが私にはどうすることもできません」

B「手遅れです」

A「もう助からないのでしょうか」

B「大変申し上げにくいのですが・・・」

B「もはや手遅れです。遅すぎたのです、あまりにも遅すぎた・・・」

A「そうですか」

A「そうですか・・・」

B「一つだけ方法があります、しかしこれはあまりに危険な賭けです」

A「じゃあ別にいいです。ジェンガしませんか」

B「いいですよ」

A「ここに2の16乗個のジェンガを積み重ねた巨大ジェンガタワーがあります」

C「徹夜で積みました」

B「がんばりましたねエ」

A「まずこのジエンガタワーを普通に倒しまして」

ガシャガシャガシャガシャアア・・・

A「そして今買ってきたこの普通のジエンガで遊びましょう」

B「そうしましょう」

C「じゃあ私はこれで帰ります。さようなら」

A「どうもお疲れさまでした」

B「さようなら」

A 「りん」

B 「じり」

A 「らっ」

B 「コンビ」

A 「人間やめますか？それともしりとりやめますか？」

B 「うーんムツかしい」

A 「それともご飯にしますか？」

B 「じゃあ人間やめます」

A 「そうですね」

B 「はい。もう今やめました」

A 「どうですか、人間でなくなった今の気持ちは」

B 「人間じゃなくなった気分ですね」

A 「差し当たり次は何になりたいですか？」

B 「コンソメ」

A「きつとなれますよ。貴方なら」

B「その時はスープにしてください。フカヒレの」

A「じっくりコトコト煮込んで捨てます」

var. 2.07 (後書き)

最高にハイって奴だ？

A「暇だなあ なにか飲みたい そんな時」

B「ワセリンしかないから どうしようもない」

A「それはどうしようもない」

B「せちがらい」

A「水道ひねってもワセリンしか出てこない」

B「自動販売機でジュース買ったと思ったらワセリンが出てくる」

A「あつたか〜いワセリン」

B「風呂入ろうと思ってフタ開けたらワセリン」

A「全身テラッテラに」

B「嫁かと思ったらワセリン」

A「遂に結婚」

B「籍を入れたと思ったら相手がワセリンだったんです」

A「それが新郎と新婦の出会いでした」

B「さて結婚生活において大切な3つの袋というものがございます」

A 「そうですねですか」

B 「はい」

Var. 2.08 (後書き)

Var. 2.06を飛ばしてたけどまあいいか！

A 「お久しぶりです」

B 「なんですか急に」

B 「トイレから帰ってきたと思ったら」

A 「なんか言ってみたかったですよ」

B 「そうですか」

A 「それにね、仮に、仮にですよ」

B 「なんですか」

A 「ウチのトイレがワームホールと繋がっていたとしたら、私がそれに飲み込まれ、幾千の時を越え再び貴方の元に戻ってきたとしたら」

B 「「お久しぶりです」という言葉も不自然ではない、と」

A 「そういう事です」

B 「それはお疲れ様でした」

A 「まったく困りましたよ」

B 「はあ」

A「トイレのレバーに小・大・ワームホールがあつたらそりゃワームホールを選ぶでしょうが」

B「ワンパク盛りですからね」

A「ワンパク盛りゆえの鋼の探求心によりこの穴の先には何があるか、それを突き止めない限り私の中のニッポンの夜明けは来ない、そんな気がしたのです」

B「腹の中でニッポンを飼ってたとは驚きです」

A「ワタシの大政奉還」

B「アナタの大化の改新」

A「わたしの頭の中の無血開城」

B「ランボー怒りのアフガン」

A「それは別に関係ないです」

B「なんか言ってみたかつたんですよ」

var. 2.09 (後書き)

お久しぶりです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7225t/>

ひまろボ

2011年10月8日17時20分発行